

## 小学校第1学年 生活科学習指導案

日 時 平成23年10月13日(木) 2校時

指導者 教育センター所員 古賀 泰伸

### 1 単元名 おいしい おやさい だいさくせん 「内容(7)」

### 2 単元とその指導

#### ○ 児童の実態

本学級の子どもは、1学期にアサガオの栽培に取り組んでいる。この活動を通して、子どもは、種から育てることや友達と一緒に育てていく楽しさ、「芽が出た」「苗が大きくなった」「花が咲いた」などといった一連の成長の変化の不思議さや面白さ、関わっていくことの楽しさを味わってきている。また、この活動では、長雨による成長不良にも見舞われているが、どの子どものアサガオにも花が咲いたことで、ある程度の満足感を得ることができている。

アサガオの世話の仕方については、全員の子どもが水やりの大切さや肥料の必要性について気付いている。また、アサガオにとって支柱を立てることの大切さにも気付いている。しかし、みんなが同じアサガオを育ててきたことで、植物によって世話の仕方が異なることに気付いている子どもは少ない。また、草花であったことや植木鉢で活動してきたこともあり、病害虫の駆除の必要性に気付いている子どもも多くはない。

#### ○ 単元観と教師の願い

本単元は、学習指導要領の内容(7)を取り扱った単元である。自分なりの工夫をしながら根野菜を育てる活動を繰り返すことで、根野菜の成長の様子やそれぞれの根野菜に合った世話の仕方があることに気付くこと、また、友達との気付きの交流の中で根野菜を大切に育てることができるようになることをねらっている。野菜作り活動をしていくなかでの、根野菜の種から「芽が出た」「苗が大きくなった」「野菜が大きくなった」などの一連の成長過程は、子どもにとって不思議であったり大きな感動であったりする。また、根野菜を収穫するまでには、「芽が出ない」「虫や鳥に食べられる」などの様々な困難と出会う。自分が求める根野菜に少しでも近付けようと、試行錯誤を繰り返したり友達と相談したりしながら活動していくことで、子どもに様々な気付きをもたせることができる。また、子どもにとって根野菜を収穫し食することは、目標が達成されたという喜びだけでなく、育て上げることができたという自信にもつなげることができる考える。

#### ○ 指導にあたって

小単元1では、まず、『大きなかぶ』を読み聞かせることで、根野菜への興味・関心を引き出すようにする。その後、アサガオを栽培したときのことを振り返らせるようにする。そのときの世話の仕方や楽しかったことを想起させることで、今後の活動への見通しをもたせるようにするとともに、世話の仕方の違いに気付かせるきっかけとする。その後、自分が育てたい根野菜を決め、種をまかせることで、活動への意欲を喚起していく。

小単元2では、まず、同じ野菜を育てる友達といっしょに、自分が目指す野菜に向かって世話をしながら育てる。そのとき見付けたよりよい育て方や関わり方、成長の様子などを友達と共有しながら活動させるようにする。その後、野菜作りで発見したことや野菜作りで困っていることを紹介し合う「おつたえ活動」を行い、目標とする野菜にもっと近づくため、もっと野菜と仲良くなるための「ばわあ あっぷ さくせん」を考えさせ、「ばわあ あっぷ さくせん」を基に活動を行わせる。必要に応じて野菜作り名人と出会わせ、様々な野菜の世話の仕方や成長の様子に触れさせることで、野菜作りの「とっておき」見付けにつなげる。その後、「とっておき活動」を行うようにする。まず、野菜作り活動を振り返らせ、みんなに共通する気付きを「みんなで みつけた ひみつ」として共有する。次に、育ててきた野菜の写真を見せながら、自分が見付けた野菜の秘密を紹介し合わせ、お互いの気付きを交流させていくことで気付きの比較・価値付けを行わせる。そして、自分の気付きの中から見付けた友達や家族に教えたい気付きを「ぼくの・わたしの とっておき」として表現させ、それらの気付きを「おやさい ぶっく」にまとめさせるようにする。

小単元3では、自分たちが野菜を育てることができたという達成感や満足感を味わわせるようにする。また、それまでの活動を振り返らせることで、自分の成長に気付かせ、自分への自信へとつなげるようにする。

### 3 単元の目標

根野菜を育てる活動を通して、根野菜が育つ場所、変化や成長の様子に関心を持ち、また、それらは生命をもっていることや成長していることに気づき、大切に育てることができるようにする。

### 4 単元の評価規準

	生活への関心・意欲・態度	活動や体験についての思考・表現	身近な環境や自分についての気づき
単元の評価規準	根野菜や根野菜が育つ場所、変化や成長の様子に関心を持ち、根野菜を大切に育てようとしている。	根野菜を育てることについて、自分なりに考えたり、工夫したり、振り返ったりして、それを素直に表現している。	根野菜は生命をもっていることや成長していること、根野菜と自分との関わりに気付いている。
小単元の評価規準	1 ①根野菜に関心をもって関わろうとしている。	①育ててみたい根野菜を選んだり決めたりしている。	
	2 ②根野菜が育つ場所、変化や成長の様子に関心をもって、世話をしようとしている。 ③自分が育てている根野菜に愛着をもって、繰り返し関わろうとしている。 ④根野菜に愛着を持ち、大切にしようとしている。	②根野菜に合った世話の仕方を考えている。 ③根野菜が育つ場所、変化や成長について考え、世話の仕方を工夫している。 ④根野菜の立場になって考え、世話の仕方を工夫している。	①根野菜の特徴、育つ場所、変化や成長の様子に気付いている。 ②育てている根野菜に合った世話の仕方があることに気付いている。 ③根野菜は、生命をもっていることや成長していることに気付いている。
	3	⑤育ててきた根野菜との関わりを振り返り、自分なりの方法で表している。	④根野菜への親しみが増し、上手に世話ができるようになったことに気付いている。

### 5 単元指導計画(全12時間)




過程	時	主な学習活動(○)と子どもの意識(・)	教師の働き掛け(○)	評価 (主な評価方法)
小単元1  どんなおやさいにしようかな	1	○『大きなかぶ』のお話を思い出し、根野菜に興味をもつ。  ○アサガオを育てたとき、どんな世話をしたか発表する。	○『大きなかぶ』を読み聞かせ、かぶの育て方に興味をもたせるようにする。 ○アサガオの世話の仕方を想起させることで、活動への見通しをもたせるとともに、根野菜の世話の仕方との違いに気付かせる基とする。	関① (行動観察)
	2	○大根、かぶ、人参から自分が育てたい根野菜を選ぶ。 ・大きなかぶにしたいな。 ・大根だったらどのくらいまで大きくなるかな。 ○根野菜の育て方について見通しをもつ。	○3種類の種を虫眼鏡で観察させた上で、自分が育ててみたい根野菜を選ばせるようにすることで、成長の不思議さにつなげる。 ○アサガオの世話の仕方を基に、根野菜の世話の仕方を考え、学習カードに書かせることで、根野菜作りへの見通しを明確にもたせる。	思① (学習カード)

	3	○根野菜の種をまく。	○名札に根野菜の名前(愛称)を書かせることで、自分が育てる根野菜に対する愛着をもたせるようにする。	関① (行動観察)
小単元2 おいしい おやさい そだてよう	4 5 6 7 8 9	○根野菜を育てていく。 ・大きなおやさいになってね。 ・ハートの形の芽が出たぞ。 ○友達に教えたい成長の様子や困っていることをカードに表現する。 ・毎日見に行ったよ。  ⑥ ○「おつたえタイム」で野菜の様子や困っていることを紹介し合う。 ・水やりは、シャワーみたいにやさしくあげた方がいいよ。 ○おつたえ活動の中で得た情報から「ばわあ あっぷ さくせん」を考え、学習カードに書く。  ○「ばわあ あっぷ さくせん」を基に、野菜作りに取り組む。  ○野菜作り名人から、野菜の育て方を教わる。 ・ア리가いっぱい来ていたのは、甘くなってる証拠なんだあ。  ○これまでの活動を振り返り、友達に教えたい野菜作りのひみつを学習カードに表現する。	○活動に必要な道具や肥料は、自分の思いでいつでも活動できるようにしておく。 ○成長の喜びだけでなく、困っていることもカードに書かせることで、「おつたえタイム」での交流につなげる。  ○困っていることを紹介させ、みんなでアドバイスを申し合わせることで、安心して活動できるようにするとともに、解決への糸口とする。 ○自分の根野菜の育て方について、「さくせん」として書き表させることで、今後の活動の見通しを明確にもたせるようにする。 ○同じやさいの成長の様子と比べさせたり、違う野菜の世話の仕方と比べさせたりしながら取り組ませる。 ○野菜作り名人から育て方を教わるだけでなく、自分たちが育ててきた野菜を見てもらうことで、野菜の成長の様子を見つめさせるようにする。 ○試行錯誤を繰り返しながら見つけた野菜のひみつを表現させることで、「とっておき活動」での表現に生かせるようにする。	関② (行動観察) 気① (行動観察) (学習カード) (みつけたよ・わかったよカード) (こんなことしたよカード) (こまったよカード)  思② (学習カード) (発言内容)  関③ (行動観察) 気② (行動観察) 思③④ (活動の様子) (ワークシート) 関④ (活動の様子) 気③ (学習カード)
小単元3 おいしい おやさい そだてたよ	10 11 12	○自分が見つけた野菜のひみつを紹介し合い、みんなに教えたい「とっておき」を見つけて表現する。 ・「元気になってね。」って話しかけたらちょっと元気になったみたい。 ○これまでの活動を振り返り、自分ができるようになったことや自分のよさを感じ取る。 ・いつも野菜に話しかけたら、お野菜と仲良くなれたよ。 ・ぼくのとっておきのお野菜が作れるようになったよ。	○共通する気づきを「みんなでみつけた ヒミツ」として共有化する。 ○自分の気づきと友達の気づきを紹介し合わせることで、気づきの比較・価値付けを行わせる。 ○今までの活動を振り返らせることで、自分の気づきが増えていることを実感させる。 ○自分の野菜を食べたときの喜びや感動を振り返らせ、野菜と関わり続けることができた自分に自信が抱けるようにする。	思⑤ (発表内容) (発表の様子)  気④ (発表内容) (学習カード)

## 6 本時の目標

今後の根野菜の育て方や関わり方について考え、考えたことを「ばわあ あっぷ さくせん」として学習カードに書くことができるようにする。  
(活動や体験についての思考・表現)

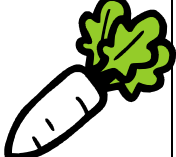
## 7 本時の展開(6/12)

学習活動と子どもの意識	教師の働きかけ(○)と評価(◆)
1 これまでの活動と根野菜の様子について振り返る。 2 学習のめあてを知る。	○活動の様子や根野菜の様子が分かる写真を提示することで、具体的に想起させる。 ○めあてを知らせることで、学習への見通しをもたせるようにする。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">             おやさいの ばわあ あっぷ さくせんを かんがえよう           </div>	
3 育てる過程で困っている子どもの紹介を聞き、その解決方法を考える。  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">             たくさん出ていたお野菜が、だんだん減ってきました。なぜだか分かりません。どうしたらいいですか。           </div>	○芽が出ていない子どもを紹介し、解決方法を考えさせることを通して、自分の世話の仕方を振り返らせるようにする。 ○芽が少なくなっている子どもを紹介することで、病虫害や鳥害にも向けさせるようにする。
4 考えた解決方法を紹介する。  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">             虫が食べたんじゃないかな。おばあちゃんが言っていたけど、虫をとってあげればいいんじゃないかな。           </div>	○どうやって考えたのか、解決方法についての情報源を紹介させることで、解決方法の求め方を広げさせるようにする。 ○必要に応じて、3年生からのアドバイスに触れさせることで、上級生や名人への働き掛けを促すようにする。
5 自分が育てている根野菜の様子について、紹介する。 ① 同じ根野菜を育てている人と2人組で紹介し合う。 ② 近くの人と2人組で紹介し合う。	○根野菜の様子を知らせる紹介カードを基に、まず、同じ野菜を育てている2人組で紹介し合わせることで、お互いの根野菜の成長の様子に似ている点と違っている点があることを感じ取らせる。その後、様々な根野菜の紹介に触れさせていくことで、それぞれの根野菜の成長の様子の違いを感じ取らせるようにする。 ○紹介する際には、どんな世話をしてきたかと、世話の仕方をどのようにして考え方を合わせて紹介させることで、子どもの学び方を広げていくようにする。
6 「ばわあ あっぷ さくせん」を考え、学習カードに書く。  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">             鳥が来ないように、CDを回りにぶら下げたいです。まえ、おじいちゃんの畑にあったからです。           </div>	○今後の取り組みについて「ばわあ あっぷ さくせん」として考えさせることで、活動への見通しをもたせる。 ◆根野菜に合った世話の仕方を考えている。 (学習カード) ○具体的な取り組みを考えることができない子どもには、育て方や関わり方についてどうやって調べたいかを考えさせるようにする。
7 考えた「ばわあ あっぷ さくせん」を紹介する。	○自分の作戦と比べながら聞かせることで、よりよい作戦へと近付けさせる。

# おいしい おやさい 大きくせん①

1ねん( )くみ なまえ( )

- 大きく そだてたい おやさいは、なんですか。



- どんな おやさいに そだてたいですか。

- そのために どんなことを がんばりたいですか。  
(どんな さくせんで がんばりますか)

---

---

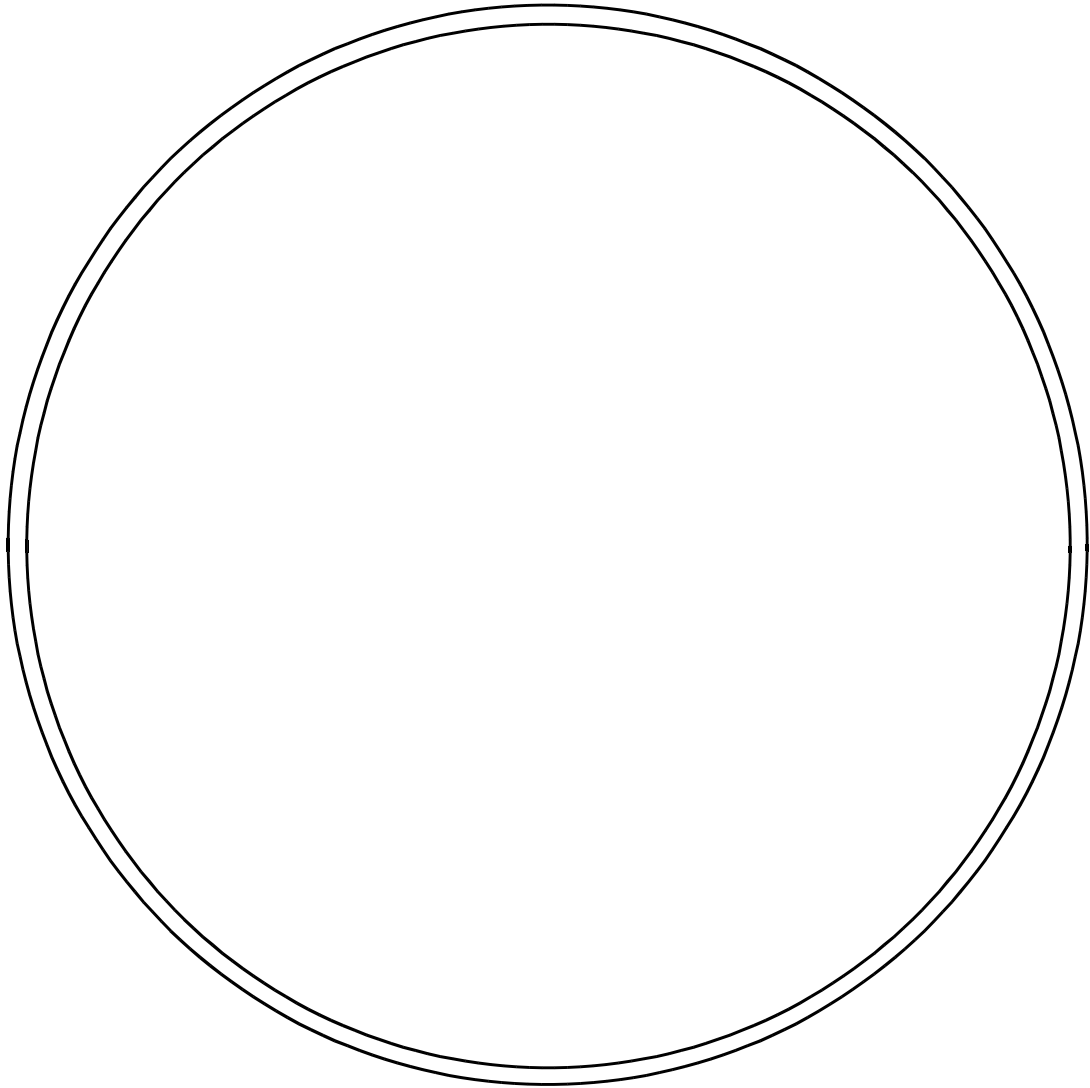
---

- じゅんびするものを かきましよう。

# おいしい おやさい 大きくせん②

1ねん( )くみ なまえ( )

・こんな たねを まいたよ 月 日 てんき ( )



おやさいに おてがみを かきましょう。

Four horizontal dashed lines for writing.

# おいしい おやさい 大さくせん③

1ねん( )くみ なまえ( )

○おやさいの ぱわあ あっぷ さくせんを かんがえよう。

・いままで おやさいに どんな おせわを しましたか。





・これから おやさいを ぱわあ あっぷ させる ために どんな おせわを したいですか。

・これからする おせわに さくせんの なまえを つけましょう。

ぼくの・わたしの ぱわあ あっぷ さくせんは、なづけて

さくせん です。

○どうやって かんがえたのかな？

・じぶんで 	・ともだちに 	・ほんで 	・めいじん(かぞく)に 

ぼくの・わたしの おやさいを しょうかいします

A large, empty rectangular box with a thin black border, intended for a drawing or written response. It occupies the central portion of the page.



ぼく・わたしが そだてている おやさいは かぶ・にんじん  
・だいこん です。なまえは、( )と います。

ぼく・わたしは

を しながら そだてました。

そしたら、

この そだてかたは、

なにか、ききたいことは ありますか。

1ねん( )くみ なまえ( )